

## 会長挨拶

### 四国紙パルプ研究協議会令和6(2024)年度総会の冒頭

片山でございます。皆様こんにちは。

本日はご多忙のところ、本協議会の2024年度総会にご参集していただきましてありがとうございます。はじめにご挨拶申し上げます。

四国地域は、我が国の「紙関連産業集積地域」のひとつであり、我が国の紙パルプ産業を支えてきた重要な地域のひとつです。四国紙パルプ研究協議会は、昭和50(1975)年に「四国地域の紙パルプに関する学問及び技術の進歩発展を図る」ことを目的として発足した任意団体で、来年の令和7年(2025年)には創立50周年を迎えます。今回は、この50周年記念の行事について、審議事項に掲げています。皆様のご協力をお願いしたいと考えています。

これまで、四国地域の紙パルプ産業のさらなる発展のためには、広い視点に立ち、イノベーションや異業種との交流などを通し、またグローバル化も見据え、四国地域の関係者はもとより四国地域以外の関係者の協力も得ながら、紙パルプのさらなる用途開発・製品化、次世代製品の開発、次世代素材としての「セルロースナノファイバー」を始めとするバイオマスの有効活用の促進などが、強調されてきました。最近では、脱炭素化そして廃プラスチック問題などを重点的に取り上げていて、そしてSDGsに貢献していくことが大切と考えています。このような取り組みの継続によって、本研究協議会の存在意義はさらに高まっていくものと思われまます。

さて、今、アフターコロナとなり、我国はインバウンドの観光客でにぎわっていることは大変うれしいことではありますが、相変わらずロシアのウクライナへの軍事侵攻に始まる戦乱は終結の兆しがなく、さらにイスラエルとパレスチナの紛争まで起こってしまいました。これらによって、さらに円安の影響も受けて、我が国民にとって物価高が深刻になっています。それらの戦乱が少しでも早く終結して、平和をとり戻すことができるようになることを願う次第であります。

我国には、この物価高の問題以前から少子高齢化に連動する労働者人口の急落の問題があります。そこで、IoTまたはAIの活用によって、あるいは適切な男女共同参画(男女雇用機会均等)によって、その問題に対応することが望まれていると思います。これらは今後の本研究協議会の話題の範疇に入るのではなかろうかと思っています。

それでは、この総会におきまして、よろしくご審議の程お願い致します。

2024年6月5日(水)

四国紙パルプ研究協議会 会長

片山健至